

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	番組制作2
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 60時間
単位数	4単位			授業形態 講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	高沢敦博	実務経験の有無・職種	有 映像制作	
<b>学習目的</b>				
映画・映像評論家とならずとも、製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。				
<b>到達目標</b>				
学生が特に<実習>において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。			
注意点	この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話をある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	0%		
	小テスト	0%		
	レポート	40%	着眼点のユニークさと論理性、リスペクトしているかを評価する	
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	歴史と向き合う	伝えるということ そしてメディアの仕事を考える		
2回	ヨーロッパとキリスト教	感性で受け止めることと、知識の使い方		
3回	リメイクとパロディと著作権	法的な背景と各国との違い		
4回	リメイクとパロディと著作権(2)	そしてその創造性を理解尊重することを学ぶ		
5回	ホラー映画	このジャンルのメリットデメリット :グループワーク		
6回	日本におけるゾンビ	特異性とメイク技術を考える		
7回	設定をヒントにエピソードを考える	ベタな流れとは? :グループワーク ~ 鑑賞		
8回	設定からストーリーを組んでみる	時系列の変化 :グループワーク ~ 鑑賞		
9回	現代映画の元ネタ	1960年代ヨーロッパ映画に見る主題の普遍性 :グループワーク		
10回	小説の映画化	村上春樹原作を韓国映画化した作品の国民性		
11回	アジアの映画①	レバノンにおけるパレスチナ問題		
12回	アジアの映画②	政府の検閲を経るイランの映画		
13回	アジアの映画③	タイのエンタテインメント		
14回	アジアの映画④	イスラエルとパレスチナ		
15回	女性の視点	女性原作+女性監督+女性カメラマン 女性ならではの視点と表現		